

外為マンスリービューⅢ 南半球編

先月までの為替相場のレビューと、
今後の注目の経済指標やイベントを元に、為替相場の展望をお届けします。

2011/11/01

欧州債務問題に左右されやすい

通貨ペア	基調		ページ数
<u>豪ドル/円</u>	➡	一部ではRBAの追加利下げ観測が根強い 予想レンジ: 73.70 ~ 82.80 円	2 - 3
<u>NZドル/円</u>	➡	RBNZ金融政策発表の際の声明に注目 予想レンジ: 57.00 ~ 63.50 円	4 - 5
<u>ランド/円</u>	➡	SARBの利下げ観測が高まるか注目 予想レンジ: 8.90 ~ 10.20 円	6 - 7

※通貨ペアをクリックすると、そのページにジャンプします



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2011 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

AUD / JPY

豪ドル/円 11月の推移

	始値	高値	安値	終値
四本値	82.28円	83.15円	74.77円	79.72円



①

1日、朝方は前日の大幅上昇の流れを引き継いで一時83.15円まで上昇したが、豪準備銀行(RBA)が政策金利の0.25%引き下げを決定した他、日経平均株価が下げた事を受け、豪ドル/円は反落。フィンランドのストゥブ欧州担当大臣が「ギリシャ国民投票は基本的にギリシャのユーロ加盟を巡るものになる可能性」と発言し、前日にギリシャのパパンドレウ首相が「第2次支援策の受け入れの是非について国民投票を実施する予定」と発言したことが蒸し返され、欧州株が寄り付きから大きく下落すると、リスク回避の動きが強まり、豪ドル/円は80.29円まで下落した。

②

9日、LCHクリアネットがイタリア国債取引の証拠金比率引き上げを発表した事が嫌気され、欧米株が大きく下落すると、リスク回避の動きが強まり、豪ドル/円は下げた。

③

10日、豪10月雇用統計は失業率が5.2%、新規雇用者数は新規雇用者数の増加を理由に1.01万人増といずれも予想(5.3%、1.00万人増)よりも強い結果となった。同時に前月分も上昇修正(2.04万人増→2.25万人増)された事も重なると、豪ドル/円は上昇した。しかし、根強い欧州債務不安を前に上値は限られ、欧州市場序盤、イタリアの債務懸念や政局混迷を蒸し返す形で同国の10年債利回りが前日に続き一時7.4%台に上昇すると、リスク回避の動きから豪ドル/円は78.04円まで下げた。

④

前週末12日に伊下院議会在財政安定法案を可決、13日にはモンティ元欧州委員の新首相指名が発表された事が好感され、14日の朝方、ユーロ/円が取引開始から大きく上昇。これを受けて豪ドル/円は79.90円まで上昇した。しかし欧州の債務懸念は根強く、欧州市場では伊最大手の銀行のウニクレデットの赤字決算をきっかけにリスク回避の動きが強まり、豪ドル/円は下げた。

⑤

前日のデクシア救済に絡む思惑や独国債入札の札割れなど、欧州債務懸念から来るリスク回避の流れを引き継ぎ、24日の東京市場にて一時10月7日以来となる74.77円の安値を記録した。

⑥

28日、前日27日に伊紙が「IMFがイタリアの債務危機悪化に備えて6000億ユーロの支援を準備」と報じ、欧州債務懸念が和らいだ事から欧州株が上昇。これを受けて豪ドル/円は値を上げた。

⑦

30日、仲値公示に向けてドル/円が上昇した事や、豪第3四半期民間設備投資が前期比+12.3%と予想(同+8.0%)より強い内容となった事も重なると、豪ドル/円は上昇した。またNY市場序盤、日米欧英加スイスの中央銀行は、スワップ協定に基づく中銀のドル資金供給の金利の0.50%引き下げで合意。この報道を受けてドル売りが優勢となった。また、米11月ADP全国雇用者数が予想よりも強い内容となり、NYダウ平均が大幅高になった事も重なると、豪ドル/円は80.02円まで上昇した。

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

AUD / JPY

今月のポイント

11月の豪ドル/円相場は74.77円～83.15円のレンジで推移し、月間の終値ベースでは約3.2%の下落(豪ドル安・円高)となった。月初は前月末の円売り介入の余韻から高く始まったが、欧州債務不安の高まりを背景に、月後半にかけて軟調に推移した。

12月の豪ドル/円相場は、先月に続き欧州債務問題を背景としたリスク回避の動きに左右されやすい展開が予想される。11月はギリシャのデフォルト懸念や伊10年債利回りの7%台突破、独債入札の札割れや仏格下げ懸念といった欧州中心国への欧州債務問題の波及などを背景に株安を受けて、豪ドル/円は下旬にかけて軟調に推移した。今月も引き続きリスク回避の動きには反応しやすい地合いが続いていると見られ、債務懸念が強まって主要国で株安が進行する場面では豪ドル/円には売り圧力が掛かりやすい。ただ、債務懸念が和らぐ場面では下落の反動から買い戻される可能性もないとは言えないため、不意の上昇には注意したい。

今月6日、RBA理事会が予定されている。エコノミスト予想では政策金利の据え置き予想が主流ではあるが、一部では先月に続いて追加利下げに踏み切るとの見方もある。政策金利が据え置かれる場合、豪ドル/円相場への影響は限定的と見られるが、万一利下げとなる場合、発表直後は豪ドル売り優勢の展開が予想される。また同時に発表される声明文にて追加利下げを示唆するようだと、豪ドル/円は下げ足を速める可能性もあるので注意したい。(川畑)

(予想レンジ: 73.70～82.80円)

今月の注目材料

※発表日時は予告なく変更される場合があります。※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

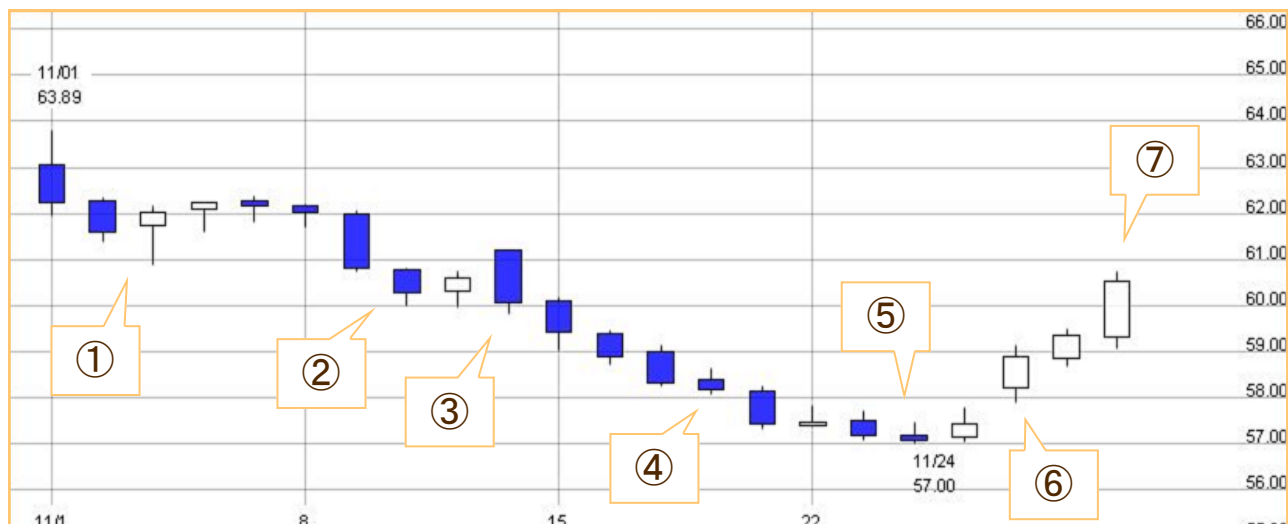
日付	経済指標、イベント等	日付	経済指標、イベント等
12/1(木)	10月豪小売売上高	12/9(金)	11月中国消費者物価指数
	10月豪住宅建設許可件数		EU首脳会議
	11月米ISM製造業景況指数	12/12(月)	10月豪貿易収支
12/2(金)	9月米雇用統計	12/13(火)	11月米小売売上高
12/5(火)	11月米ISM非製造業景況指数		米FOMC政策金利発表
12/6(火)	第3四半期豪経常収支	12/15(木)	日銀短観
	RBAキャシュターゲット	12/20(火)	RBA議事録
12/7(水)	第3四半期豪GDP	12/21(水)	日銀金融政策決定会合(20日～)
12/8(木)	11月豪雇用統計	12/22(木)	第3四半期米GDP・確報値
	ECB政策金利発表		
	ユーロ圏首脳会議		

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

NZD/JPY

NZドル/円 11月の推移

	始値	高値	安値	終値
四本値	63.05円	63.79円	57.00円	60.54円



- ① 3日、NZ第3四半期失業率は6.6%と予想(6.4%)より弱い結果となった事や、サルコジ仏大統領の「ギリシャが支援策を承認しなければ一切の支援を行わない」との発言をきっかけにリスク回避の動きが強まり、NZドル/円は60.90円まで下落した。
- ② 10日、ボラードNZ準備銀行(RBNZ)総裁が金融安定リポートの中で「金利の引き上げを2013年に延期へ」「経済と金融システムに対するリスクが増加」と発言したことに加え、NZ10月PMIが46.5と2009年6月(45.6)以来の水準に低下した事で、NZドルは下落。さらに、イタリアの債務懸念や政局混迷を蒸し返す形で同国の10年債利回りが一時7.4%台への上昇した事や、フランスやオーストリアの格下げの噂を背景にリスク回避の動きが強まると、NZドル/円は60.00円まで下落した。
- ③ 14日の取引開始前、NZ第3四半期小売上高は前期比+2.2%と予想(同:+0.6%)より強い結果となった。その他、前週末12日に伊下院議会在が財政安定法案を可決、13日にはモンティ元欧州委員の新首相指名が発表された事を受けた欧州債務懸念の緩和に伴い、ユーロ/円が上昇した。これらを手掛かりに、NZドル/円は取引開始直後に61.22円まで上昇した。しかし、欧州市場では伊最大手銀行ウニクレディットの赤字決算をきっかけにリスク回避の動きが強まると、NZドル/円は軟調に推移した。
- ④ 18日、NZで発生した地震報道の他、上海株が引けにかけて一段安となったことも重なり、NZドル/円は一時58.08円まで下げた。
- ⑤ 24日、独仏伊首脳会談後の会見で、メルケル独首相が「ユーロ圏共同債は必要ないとの立場に変更はない」と述べた事などを受けて欧州債務危機解決への期待が後退。これをきっかけに欧州株が急落すると、NZドル/円は57.00円の安値を付けた。
- ⑥ 26日のNZ総選挙にて、キー首相率いる与党が前回より議席を伸ばして勝利した他、27日に伊紙が「国際通貨基金(IMF)がイタリアの債務危機悪化に備えて6000億ユーロの支援を準備」と報じ、欧州債務懸念が和らいだことも重なり、週明け28日にNZドル/円は58.59円まで上昇した。
- ⑦ 30日、日米欧英加スイスの中央銀行は、スワップ協定に基づく中銀のドル資金供給の金利の0.50%引き下げで合意。この報道を受けてドル売りが優勢となった。また、米11月ADP全国雇用者数が予想よりも強い内容となり、NYダウ平均が大幅高になった事も重なり、NZドル/円は60.73円まで上昇した。

NZD / JPY

今月のポイント

11月のNZドル/円相場は57.00円～63.79円のレンジで推移し、月間の終値ベースでは約4.1%の下落(NZドル安・円高)となった。月初は前月末の円売り介入の余韻から高く始まったが、欧州債務不安の高まりを背景に、月後半にかけて軟調に推移した。

12月のNZドル/円は、先月に続き欧州債務問題を背景としたリスク回避の動きの影響を受けやすい展開が予想される。欧州債務問題の根深さを考えると、今月もリスク回避の動きには反応しやすい地合いが続くと見られ、債務懸念が強まって主要国で株安が進行する場面ではNZドル/円に売り圧力が掛かりやすい。ただ、債務懸念が和らぐ場面では下落の反動から買い戻される可能性もないとは言えないため、不意の上昇には注意したい。

一方、NZ国内の材料を見ると、今月9日に金融政策発表が予定されている。市場では金利据え置き予想が主流となっており、RBNZの利上げ開始は来年春以降との意見が多いようだ。もし声明にて、最近の欧州債務問題を背景に、利上げ開始時期の先送りを示唆する内容が含まれれば、NZドル/円は売りが強まる場面がありそうだ。また、NZの利上げ開始時期を読み解く上で、23日のNZ第3四半期GDPにも注目したい。(川畑)

(予想レンジ: 57.00～63.50円)

今月の注目材料

※発表日時は予告なく変更される場合があります。※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

日付	経済指標、イベント等	日付	経済指標、イベント等
12/1(木)	11月米ISM製造業景況指数	12/15(木)	日銀短観
12/2(金)	9月米雇用統計	12/21(水)	第3四半期NZ経常収支
12/5(火)	11月米ISM非製造業景況指数		日銀金融政策決定会合(20日～)
12/8(木)	RBNZオフィシャル・キャッシュレート	12/22(木)	第3四半期NZGDP
	ECB政策金利発表		第3四半期米GDP・確報値
	ユーロ圏首脳会議		
12/9(金)	11月中国消費者物価指数		
	EU首脳会議		
12/13(火)	11月米小売売上高		
	米FOMC政策金利発表		

ZAR/JPY

ランド/円 11月の推移

	始値	高値	安値	終値
四本値	9.80円	9.99円	8.94円	9.51円



- ① 4日、米10月雇用統計の強めの結果を受けたドル/円の上昇につれて、ランド/円は一時9.99円まで上昇した。しかし10円の大台を前に上値は重く、その後は反落した。
- ② 9日、欧州清算機関のLCHクリアネットが、イタリア国債取引の証拠金比率を引き上げ、リスク回避の動きから時間外のNYダウ平均先物などが下落した他、格付け会社ムーディーズが南アフリカの格付け見通しを「安定的」から「ネガティブ」に引き下げた事も重なり、ランド/円は弱含みで推移した。
- ③ 11日、南アフリカ準備銀行(SARB)は市場の大方の予想通り、政策金利の5.50%据え置きを決定。会見でマーカスSARB総裁は2011年と2012年のGDP見通しを引き下げを発表した他、利下げについての話し合いがあった事が伝えられた。しかし、ランド/円相場の反応は薄かった。
- ④ 23日、ベルギー・仏銀行大手デクシアの救済に絡む思惑や独国債入札の札割れなど不安材料を背景に主要国株価が下落したことを受け、ランド/円は下落。なお、南ア10月消費者物価指数は前年比+6.0%と予想(同+5.9%)より強い内容となったものの、市場の反応は薄かった。
- ⑤ 前日の欧州債務懸念からくるリスク回避の流れを引き継ぎ、24日早朝に一時2009年2月以来となる8.94円の安値を記録した。
- ⑥ 28日、前日27日に伊紙が「国際通貨基金(IMF)がイタリアの債務危機悪化に備えて6000億ユーロの支援を準備」と報じ、欧州債務懸念が和らいだことから、ランド/円は取引開始直後から上昇した。NY市場では、欧州情勢好転への期待感や米国年末商戦の好スタートを背景にNYダウ平均の上げ幅が一時300ドルを超えると、ランド/円は9.37円まで上昇した。なお同日に経済協力開発機構(OECD)は、(南アの)需要の伸びが予想を下回り続けるならSARBに追加利下げ余地がある事を指摘したが、ランド/円相場の反応は限定的であった。
- ⑦ 29日、南ア第3四半期国内総生産(GDP)は前期比年率+1.4%と予想(同+1.8%)より弱いものの、前回(同+1.3%)をわずかに上回った。一方、前年比は+3.0%とわずかに予想・前回(共に同+3.1%)を下回るなど、強弱入り混じる内容を受けてランド/円の反応は薄かった。
- ⑧ 30日、日米欧英加スイスの中央銀行は、スワップ協定に基づく中銀のドル資金供給の金利の0.50%引き下げで合意。この報道を受けてドル売りが優勢となった。また、米11月ADP全国雇用者数が予想よりも強い内容となり、NYダウ平均が大幅高になった事も重なり、ランド/円は9.58円まで上昇した。

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

ZAR/JPY

今月のポイント

11月のランド/円相場は8.94円～9.99円のレンジで推移し、月間の終値ベースでは約3.2%の下落(ランド安・円高)となった。月初は前月末の円売り介入の余韻から高く始まったが、欧州債務不安の高まりを背景に、月後半にかけて軟調に推移した。さらに、欧州勢が損失穴埋めのためにランドを売ってユーロを買い戻す動きを取った事も、ランド/円相場を押し下げた。

12月のランド/円は、先月に続き欧州債務問題を背景としたリスク回避の動きに左右されやすい展開が予想される。この問題の根深さを考えると、今月もリスク回避の動きには反応しやすい地合いが続いていると見られ、債務懸念が強まって主要国で株安が進行する場面ではランド/円には売り圧力が掛かりやすい。ただ、債務懸念が和らぐ場面では下落の反動から買い戻される可能性もないとは言えないため、不意の上昇には注意したい。

今月、南ア国内では政策金利の発表は予定されていないものの、先月21日にSARBは金融政策報告の中で政策金利の引き下げを示唆した他、28日にOECDが経済見通しの中で同国の利下げの可能性について言及しており、予想より弱い経済指標が相次ぐようだと、SARBが利下げに向けて金融政策の舵を切る可能性がある。SARBサイドの要人発言には注意しておきたい。(川畑)

(予想レンジ:8.90～10.20円)

今月の注目材料

※発表日時は予告なく変更される場合があります。※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

日付	経済指標、イベント等	日付	経済指標、イベント等
12/1(木)	11月米ISM製造業景況指数	12/14(水)	11月南ア消費者物価指数
12/2(金)	9月米雇用統計	12/15(木)	日銀短観
12/5(火)	11月米ISM非製造業景況指数		11月南ア生産者物価指数
12/7(水)	10月南ア実質小売売上高	12/21(水)	日銀金融政策決定会合(20日～)
12/8(木)	ECB政策金利発表	12/22(木)	第3四半期米GDP・確報値
	ユーロ圏首脳会議	12/29(木)	11月南ア貿易収支
12/9(金)	11月中国消費者物価指数		
	第3四半期南ア経常収支		
	EU首脳会議		
12/13(火)	11月米小売売上高		
	米FOMC政策金利発表		

巻頭の特記事項を必ずお読みください。